



いざというときを想定し

春の防火デー・3/17

No.5

庄原市消防団口和方面隊が春の防火デーに伴い、火災想定訓練などを実施しました。

まず、消防団員が消防ポンプ積載車でパレードを行い、火災予防を地域に呼びかけました。その後、口和町湯木の湯木八幡神社で、火災想定訓練を実施しました。

時折雨や風が強くなり、寒さが厳しい中でしたが、いざというときのため、消防団員の皆さんは真剣に訓練に取り組んでいました。



▲放水訓練の様子

春のまちなみを彩る

東城まちなみ春まつり・4/6-9

No.7

旧暦の桃の節句を祝う東城まちなみ春まつりが開催され、夢街道ルネサンス認定地区である「街道東城路」沿いの商店や民家に、代々伝わるひな人形や生け花などが飾られました。

6日のオープニングセレモニーでは、東城高校吹奏楽部の生徒たちによる演奏や、西城町出身で、日本でただ一人のオルゴール作曲家橋本勇夫さんによる演奏会、7日には、生け花パフォーマンスや、東城在住で画家の奥田敏雄さんと地元小学生7人が特大パネルに「桜」を描くライブペインティングなどのイベントが行われました。

また、東城中学校と東城高校の生徒で組織する東城応援隊によるボランティアガイドも行われ、訪れた方々は思い思いのまちなみ散策を楽しんでいました。



▲ひな人形や生け花が街道を彩った

スポーツで地域交流

自治会対抗ソフトバレーボール大会・3/24

No.4

里山総領体育館で、総領節分草スポーツクラブ主催の自治会対抗ソフトバレーボール大会が開催され、6チーム50人が参加しました。この催しは、スポーツを通じて地域の交流を深めることや、健康・体力づくりを目的として、毎年開催されています。

大会は、激しいラリーの応酬が続く熱戦が繰り広げられ、下領家自治会が見事優勝しました。

同スポーツクラブの延清圭祐理事長は「これからも、スポーツを通じて、地域で交流できるような機会を設けていきたい」と話していました。



▲ジャンプ一番でブロック

巣箱づくりから自然を学ぶ

鳥の巣箱づくり体験・3/30

No.6

比和自然科学博物館友の会が主催する、鳥の巣箱づくり体験が行われ、地域の親子など約20人が参加しました。

参加者は、1枚の板を使って、シジウカラやスズメなどが入ることのできる巣箱を作りました。正確にサイズを測ってのこぎりで切っていたつもりでも、組み立ててみると隙間ができていたり、足りない部分があったりと苦戦をしていましたが、同会の会員から作り方やコツを教わりながら、それぞれの巣箱を完成させました。

参加者は、「早くこの巣箱に鳥が巣を作りに来てくれるといいな」とうれしそうに話していました。



▲協力しながら慎重に作業を進める親子

春の地域を盛り上げるイベント

第4回庄原さくらフェスティバル・4/7

No.1

4月7日、上野総合公園で「庄原さくらフェスティバル」が開催されました。

春の庄原を盛り上げるため、さくらフェスティバル実行委員会が主催し、今回で4回目となりました。

会場では、約60店の出店が並び、餅まき、ステージで披露される太鼓の演奏や今回が初めてとなるさくらマラニックなどが行われ、家族連れなどの多くの人でにぎわいました。

来場者は「初めてさくらフェスティバルに来たが、桜がちょうど満開で、出店の種類も豊富でとても良かった」と楽しそうに話していました。



▲満開の桜の中をオープンバスで周遊

自然環境を大切に

河川ボランティア清掃・4/14

No.3

西城川、比和川のボランティア清掃が行われ、西城地域では西城町ふれあいセンター周辺に西城川漁業協同組合員や地域の方など約40人が集まりました。

参加者は雨が降る中、夢乃橋から開明橋までの約3キロメートルの川沿いを歩きながら、ペットボトルや空き缶を回収し、砂に埋もれている布やビニール袋などを掘り出しながら、丁寧に拾い集めました。ごみ袋20袋分以上のごみが回収され、中には突っ張り棒やキャタピラーなどの大型のものもありました。

参加者は、「ビニールから鉄くずまでさまざまな種類のごみを回収できた。きれいになった河川を見てほしい」と話していました。



▲空き缶など多くのごみが回収された



▲さくらマラニックのエイドステーション(休憩所)



▲出店が並ぶ芝生広場は多くの人でにぎわった

庄原産のうまい酒PR

酒でも呑んでいきん祭・3/23-24

No.2

道の駅たかのので「まあええけえ酒でも呑んでいきん祭」が開催されました。庄原のお酒をPRしようと、今回初めて道の駅たかののが企画したものです。

当日は、市内の酒蔵で造られた日本酒、どぶろく特区で市内農家が製造したどぶろく、高野りんごで造ったシードルやワインなどが試飲販売されました。ドライバーは、買ったお酒を帰って飲むのを楽しみにしていました。

道の駅たかのの根波裕治駅長は「どのお酒にもそれぞれ、歴史と造った方の思いが込められています。今後も、出荷者でもある酒蔵の皆さんと連携して、庄原のお酒をPRし、販売につなげていきたいですね」と話していました。



▲販売の様子